

第9回 IISORA シンポジウム 2018 福島

原発事故から7年、 不条理と闘い生きる思いを語る

主 催：飯館村放射能エコロジー研究会 (IISORA)

共 催：飯館村民救済申立団 飯館村民救済弁護団

NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ

2018年2月17日(土) 13時~18時

場 所：福島県青少年会館 大研修室 (収容人数 200 名程度)

参加者：どなたでもお気軽にご参加いただけます。

参加費：無料

飯館村を忘れない！ —原子力発電所事故前の飯館村— 写真：横山秀人



協力団体：京都大学原子炉実験所原子力安全研究グループ、国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン、原子力資料情報室、原発事故被害者相双の会、市民エネルギー研究所、飯館村写真展実行委員会、日本大学生物資源科学部系長研究室、国際環境 NGO FoE Japan、BIOCITY、ヒューマンライツ・ナウ、ふえみん婦人民主クラブ、福島の子どもたちとともに・湘南の会、早稲田大学社会科学総合学術院家田研究室、R-DAN (50 音順)

お問い合わせ / IISORA 福島シンポジウム事務局 tel : 090-6601-6786 email : sympo@iitate-sora.net

プログラム

13:00 開会あいさつ 7年間を振り返って……………小澤祥司

13:10-15:20 村民の思い

原発事故、避難、帰村の葛藤。村内外での生活とコミュニティ再建

●進行：糸長浩司

ADR 飯館村民救済申立闘争での理不尽に抗して……………長谷川健一(村民)

賠償裁判闘争に取り組んで……………岡本易(村民)

二地域居住と生活・コミュニティ再建……………菅野哲(村民)

村に暮らす思い……………細杉今朝代(村民)

新しいコミュニティ「いいたて未来会議」……………横山秀人(村民)

<休憩 15:20-15:40>

15:40-17:00 支援者からの思い

●進行：浦上健司

除染の効果と限界、村で暮らすことの課題……………糸長浩司(日本大学)

20 ミリシーベルトは安全・安心か……………今中哲二(京都大学)

原発災害補償闘争での東電・国の責任……………飯館村民救済弁護団弁護士

放射線の健康影響～将来世代もふくめて……………振津かつみ

(医薬基盤健康栄養研究所)

17:00-17:50 総合討論：これからの生活再建と飯館村への思い

●進行：糸長浩司

全登壇者

17:50-18:00 総括あいさつ

今中哲二、糸長浩司

○福島県青少年会館

<http://fukushima-youth.com/youth/access/>

〒960-8153 福島県福島市黒岩字田部屋 53 番 5 号

